

スペシャルすまいる

No. 48
2016 April

NIKKO City Council of Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



～キャンドルアート 日光 × 東北～

CONTENTS

- 日光市地域福祉活動計画 ----- 2～3ページ
- わたしの地域のふくし活動 ----- 4～5ページ
- 寄附・共同募金のお礼と報告 ----- 6ページ
- 高校生ボランティアネットワーク活動報告 ----- 7ページ
- ボランティア団体活動紹介 ----- 8ページ
- 小地域見守り活動レポート（足尾地区）----- 8ページ



この広報紙の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

第2期日光市地域福祉活動計画が完成しました！！

「もう一度、地域の魅力や課題を見つめ直してみよう！」
「地域みんなで、できる活動があるのではないか！」

・・・そういう思いを持って、第二期の地域福祉活動計画づくりがはじまりました。



平成26年7月～平成28年2月にかけて、委嘱された策定委員を中心に各地区で市民会議を開催し、地域の福祉課題について話し合いました。

地域の明るい未来へと繋げるため、
地区別に行動計画を作成しました。

★地域福祉活動計画とは・・・

福祉活動を行う地域住民や地縁組織、ボランティア団体、関係機会等に広く呼びかけて、福祉の視点を中心に、“**こんなまちにしていこう**”という思いを行動計画としてまとめたもの。

市民会議では、たくさん悩み、
たくさん考え、たくさんの議論
を積み重ねてきました。



市民会議に参加した委員の声

地域内の様々な分野の方と話をすることができ、いろいろな視点で物事を見ることができました。



みんながリーダーとなって主体的に地域で活動していくことが必要だと思いました。



地域を愛する気持ちの強さを感じることができた。



今回の計画を地域の多く方に関心をもってもらいたい。



地域の問題点が多く、テーマを絞ることに苦労した。



本計画の作成には、市内を **13 地区** に分け、地区ごとに住民やボランティア団体、NPO 法人、学校関係者等で構成される**市民会議** を設置し、そこでの話し合いを中心に、今後5年間の目標と福祉活動の計画を策定しております。今後は、本計画に基づき、身近な地域での助け合いを市民の皆様と一緒に進めてまいります。

地域に新しい「支え合い」のかたちを創造する

「市民が“ニッコリ”助け合い、“ホッ”と安心できるまち」を目指して



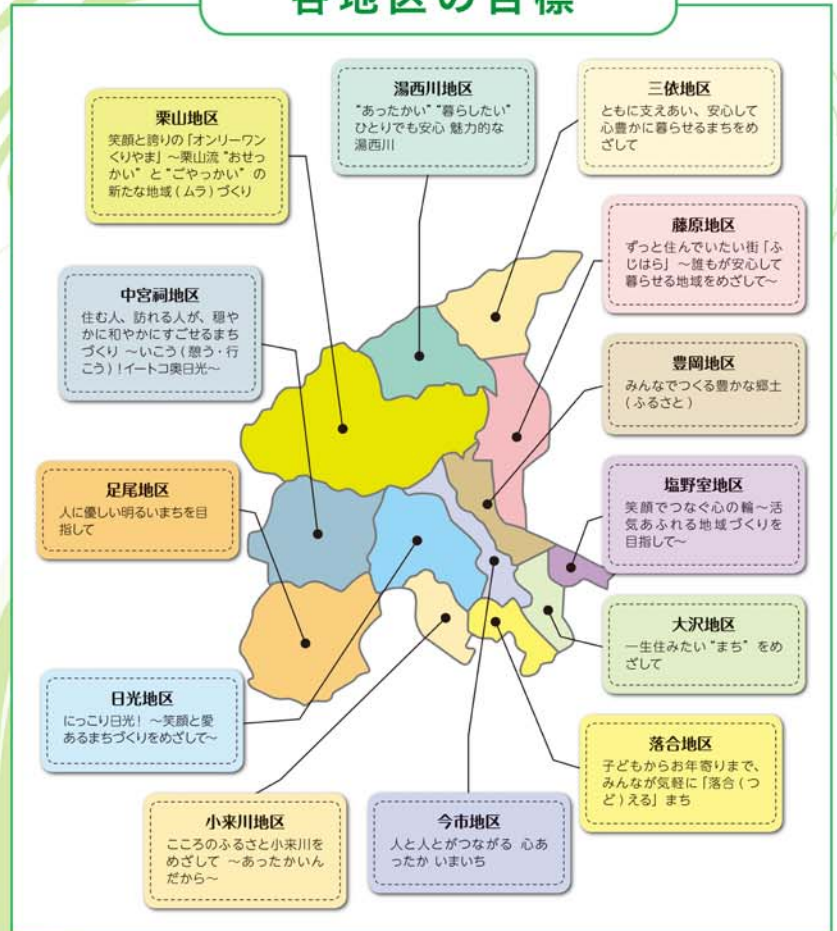
平成28年2月13日(土)に
日光市今市文化会館大ホールにて



市民会議全体会議を開催!!

日光市社会福祉協議会では、第1期計画の期間終了に伴い、地域福祉の更なる充実と推進を目指して、日光市と連携し、市が策定する「地域福祉計画」と日光市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」を一体的に作成しました。今回、その計画書の完成にともない、2月13日(土)に全体会議を開催し、そこで地区別計画の発表を行いました。当日は、策定に関わった委員だけでなく、市内・市外から多くの来場者にお越しいただき、各地区の発表者から計画の内容と熱いメッセージが伝えられました。

各地区の目標



～地域福祉活動計画の講評～



講師
国際医療福祉大学
医療福祉学部
医療福祉マネジメント学科
学科長 小林 雅彦教授

計画を策定していく過程には、新たに地域の課題に気づいたり、人と人が繋がったり、課題解決に向けて新しいアイデアが生まれてきます。このこと自体に価値があるほか、計画を推進していくためには、いろんな人、団体、機関と協力して進めていくことの重要性を伝えられていました。



※地域福祉活動計画では、市内の小中学生を対象にした福祉のポスターコンクールにおいて、入賞作品を活用しています。



落合地区 OCHIAI

落合地区社会福祉協議会『支え合える地域づくり』

■福祉施設見学会

市内にある福祉施設の見学を通して、「福祉」への理解を深めることを目的に年に1回開催しています。

落合地区は現在、約3人に1人が65歳以上の高齢者で認知症の方も増えてきています。そこで今年度は“高齢者福祉”をテーマとし、「特別養護老人ホームきびたき荘」と「サービス付高齢者住宅ふるさとホーム日光」を見学しました。



支えあい、みんなで作る地域の輪

■介護教室

“老い”と“介護”をより身近に考えるとともに、正しい知識・技術の習得を目指しています。



「正しい食生活について」



「認知症を正しく理解しよう」

■いきいき料理教室

住民同士の交流の活性化と食生活の改善を目的に実施しています！

食事を食べる時はもちろん、調理中にもぎやかに、楽しく“食”を学びます。



日光地区 NIKKO

役員研修会

日光地区社会福祉協議会では、「地域で災害対策を考える」と「認知症高齢者を地域で支える」の2つのテーマのもと、役員研修会を開催しました。

地域で災害対策を考える



「地域で災害対策を考える」の研修会では、日光地区内にて先進的に取り組んでいる久次良町自治会と宮小来川自治会にお願いし、それぞれの活動を発表して頂きました。質疑応答の時間では、身近な実践者に、多くの質問が寄せられ、意見交換が積極的に行われました。

認知症高齢者を地域で支える



「認知症高齢者を地域で支える」の研修会では、NPO 法人風の詩、社会福祉士の永島徹氏を講師として招き、認知症高齢者をどのように地域で支えるかについて講演して頂きました。講演後のグループワークでは、感想や意見を交わし、より知識を深めました。

のふくし活動



～『みんなにやさしいまち今市』をめざして～

お元気ですか？ ふれあい訪問事業！！



今市地区社会福祉協議会は、ひとり暮らしの高齢者、2人暮らしの高齢者を対象にふれあい訪問を行っています。

住み慣れた地域で安心して暮らせるよう日頃の見守り、定期的な訪問活動を、民生委員児童委員が中心となって行っています。

「時々来てくれるので、とても心強く思っています」「なにかあると、ご近所の民生委員さんに相談するのよ」など、訪問を受けるみな様からも感謝のお言葉を頂いています。

今市地区社協では、困ったときに気軽に相談できるようふれあい訪問活動をすすめています。



防災教室

～防災マップから始まる地域づくり～

豊岡地区社会福祉協議会では、2月25日（木）に豊岡公民館にて“防災教室”を開催しました。今回は、9月の関東・東北豪雨によりあらためてマップの必要性を感じた、との声を受けて『防災マップ』を作成しました。

当日は災害や地域の現状について学んだあと、参加者60名が自治会ごとに分かれて、マップへ地域の危険箇所や防災資源、人的資源を書き込みました。マップ作成をとおして、参加者間で地域の状況を再確認し、情報を共有する機会となりました。



【参加者の声】

- 昨年の大雨災害から防災の重要性をより身近に感じるようになった
- マップづくりをとおして、水路や道路の認識があいまいなことに気づいた
- 自治会役員と民生委員が共働でマップづくりをすることによって共通認識が図れ、情報交換ができてよかった
- 近所の方とのつながり、日頃の声かけが必要だと感じた
- 自分たちの地域は自分たちで守っていくことの必要性が理解できた
- 自治会内で防災について話し合う機会を持ちたい



共同募金

ご協力ありがとうございました

お寄せいただいた募金は、栃木県内および日光市内の福祉施設、団体や社会福祉協議会に配分され、みなさまの地域の「ふだんのくらしのしあわせ=福祉」を応援するために役立てられます。



今年度の配分事業の一部をご紹介します

- 車いす貸与事業
- 広報誌発行事業
- ボランティア活動推進校事業
- 福祉団体活動助成
- ボランティア団体活動助成
- 歳末たすけあい事業助成 など



募金総額は **17,859,367円**

寄附報告 平成27年12月1日～平成28年2月29日



(一般寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	金額(円)
本所	早川 勇	300,000
本所	宇都宮ヤクルト販売(株)	59,000
本所	日光山輪王寺 朝粥会	100,000
本所	小崎 光	50,000
本所	京都府災害ボランティアセンター	25,000
本所	日光市職員労働組合	110,000
今市	小野 ヨシエ	10,000
今市	加藤 清	78,738
今市	阿部 千代子(特殊詐欺防止対策賞金の一部)	10,000

取扱	寄附者名	金額(円)
今市	今市公民館「登山入門教室」	11,196
今市	ボーイスカウト今市第2団	159,498
藤原	宮崎 進治	30,000

(物品寄附)

順不同・敬称略

取扱	寄附者名	品名
本所	シャインクス一級建築設計管理事務所	車椅子2台
今市	東京電力常備労組栃木北支部	タオル120本
藤原	斎藤 文雄	ポータブルトイレ

【活動報告】

若いチカラで 地域社会のつながりをつくる。

高校生のボランティア活動の現場から

平成25年度に結成した「NIKKO高校生ボランティアネットワーク」。市内の今市高校（福祉部）と今市工業高校（ボランティア部）で構成されたボランティアネットワーク（団体）です。

現在、この高校生たちが中心となって、ボランティア活動を通して人と人をつなぐ「縁人（えんぴーと）プロジェクト」を展開しています。今回は、その高校生たちの活動を紹介します。

【縁人プロジェクト】の「縁人（えんぴーと・造語）」とは、高校生たちの役割を意味しています。その役割とは、ボランティア活動を通して新たな人や地域のつながりをつくる、つまり「縁を結ぶ人（高校生）」という役目のことです。

この縁人プロジェクトでは、主として2つの活動に取り組んでいます。

ココカラハジマル。プロジェクト

ひとつが、このNIKKO高校生ボランティアネットワークのきっかけとなった宮城県東松島市での活動「ココカラハジマル。プロジェクト」です。

東松島市は、平成23年3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けました。震災

自体の規模が広範囲だったこともあり、5年を経過した今でも仮設住宅での生活を余儀なくされる方々も多く、精神的なサポートが必要となっています。

そこで、2～3ヶ月に一度（年間5回）、東松島市を訪れ、地元の宮城県石巻西高校の生徒たちと一緒に、自分たちで企画したサロン活動（お茶会、夏祭り、クリスマス会の開催など）を通して、仮設住宅で暮らす方々との交流を続けています。

現在、東松島市では、仮設住宅から移転地への移行が進み、平成29年度中には移行が完了する予定となっていますが、移転先での新たな地域コミュニティづくりなど、新たな課題も出てきています。

カワマタスマイル。プロジェクト

もうひとつが、栗山地域・川俣地区での活動「カワマタスマイル。プロジェクト」です。

川俣地区は、人口149人、高齢化率55%。市内でも高齢化率の高い地域です。また、若い世代の流出などにより、祭や獅子舞などの伝統や文化の継承も大きな課題となっています。

そこで、このプロジェクトでは、月に1～2回ほど川俣地区を訪れ、「川俣の活性化」をテーマに、大きく2つの活動に取り組んでいます。

まずは、伝統行事等での活動です。獅子舞では警護役を担わせていただいたり、8月の夏祭りでは模擬店を出店し、祭を盛り上げました。また、伝統食文化の石焼きの手伝いやマタギ体験（かんじきでのスノートレッキング、ジビエ料理の食事など）などを行い、地域理解を深めています。

2つめは、地域との交流活動です。より顔の見える関係づくりのため、体育祭などの地域行事をはじめ、今年度から高齢者の生きがいつくりの一環として取り組んでいる川俣そばや川俣菜づくりなどを通して交流を深めています。

一方、地域としても高校卒業後も継続して関わってもらいたいと「心縁祭（しんえんさい）」を企画する動きも見られるようになってきました。

この2つのプロジェクトは、平成28年度も継続して行う予定です。高校生たちの活躍に期待が高まります。

この高校生の活動は、Facebookページでもご覧になれます。<http://www.facebook.com/nicokatsu/>

日光市福祉ボランティア団体協議会の紹介



今月号でも『日光市福祉ボランティア団体協議会』加入団体の紹介をしていきます。
また、日光市の地域福祉発展のために、多くのボランティア団体の皆さまにご加入頂きたいと思っておりますので、「日光市福祉ボランティア団体協議会」へ加入希望の団体がありましたら日光市社会福祉協議会までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

手話サークル・こぶしの会

毎週木曜日の夜7時～9時に活動しているボランティアグループ。手話の勉強だけでなく、手話を使ったゲームや聴覚障がいの文化を身に付けたり、たまには美味しい物を食べながら交流したりと楽しく活動をしています。手話に興味のある方はお気軽に足を運んでみてください。

TEAM " Tiny Revolution "

平成15年設立の若者中心のボランティアグループ。月に一回の定例会を基本とし、地域をよくするためにできることや、やってみたいことを考え話し合い、活動へつなげています。また、毎年行われている日光市ボランティア・市民活動フェスタへも参加をしています。

傾聴ボランティア「うすゆき草」

平成17年設立のボランティアグループ。入院患者の方々への傾聴ボランティア活動を行っています。入院を余儀なくされている患者の方々の思い(寂しさや孤独感・不自由さ等)を受け止め、共感しながら、心を元気にするお手伝いを心がけて活動しています。

NPO結婚を考える会「ありがとう」

平成20年設立の少子化対策をスローガンに活動しているボランティアグループ。日光市内で婚活イベント活動等を通じて、出会いの場の提供と個々人の縁結びを実施しています。

■編集・発行/社会福祉法人日光市社会福祉協議会
〒321-1261 栃木県日光市今市511-1 (日光市役所春日町庁舎内) TEL 0288-21-2759 / FAX 0288-21-3110
ホームページアドレス <http://www.shakyo-nikko.or.jp/>

小地域見守り活動レポート

"見守り活動"がつなぐ足尾地区の地域づくり

足尾地区では高齢化の進行にともない、ひとり暮らしの高齢者が増えています。そのことから高齢者に優しい地域づくりとして、地区社協を中心に民生委員や自治会、老人クラブやボランティアなど、地域住民や団体、機関が連携・協力してミニデイサービス事業や認知症サポーター養成講座、災害研修などを開催し、積極的に見守り活動を推進しています。

今年度の災害研修では、避難所運営訓練を実施。いつ起こるのか分からない災害に対応するためには、普段からの見守りや住民同士の交流が重要であることを改めて実感する機会となりました。

少子高齢化の進む足尾地区ですが、見守り活動を通して住民同士のつながりを紡ぎ直し、助け合いや支え合いのある地域を目指していきます。



足尾地区



(災害研修会の様子)